

あとがき

学部学生にとって病院実習はどのように位置づけられているのでしょうか？ この命題はある種謎めいています。その理由として実は教員であるわれわれが既に答えを予想しているからでもあります。いわば『自明の理』の部分もあるわけです。各校によって違いがあるでしょうが、私が勤務している大学では5回生の春にオリエンテーションがあります。CBT（共用試験）とOSCEの試験は当然済んでいますので、病院についてはよくわからないにしても実習については理解しているはずです。

全体のオリエンテーション後1週間を経て病院実習が始まります。耳鼻咽喉科のクリニカルクラークシップは、月曜日の朝8時半から教授室での面談でスタートします。その際の私の最初の質問は『君たちにとって病院実習とは何ですか？』です。大抵の学生が質問の意味を理解していません。「なぜ、医学部の学生には病棟実習が必修なの？」とか少し切り口を変えてやると、「将来、医師になるために診療科を見ておくためです。」とか「本や講義で勉強したことを確認するためです。」等々答えてきます。どれも間違っ

てはいないのですが、そもそもが違っているのではないのでしょうか？
誘導しなければ患者さんや看護師、同意と契約などの医療にかかるkey wordsは全く出てきません。もちろん、基礎医学で学んだことが臨床で役に立つのかということすら思いは至っていないのが実情です。私は「君たちが今まで学んできたのは医学、病院で行われているのは医療。医療では少なくとも病人の何を癒すことができるのか、それが目的です。君たちは耳鼻咽喉科で患者さんを通して医療の実体を学ぶのだから、患者さんと会話をし、悩みや苦しみに共感し、それに立ち向かう医師の姿を実感して欲しい。」と答えています。

先年、ハワイ大学の実習生（交換留学生）を耳鼻咽喉科で預かったことがあります。彼らの医師になることの意志の強さ、自覚はとても素晴らしいものでした。生理学や臨床免疫学の知識もとても正確でした。もっと感じたのは医療提供のスキルを体得していることです。既に、医師のようでした。翻って日本の医学教育はこれでよいのか？ 悩ましい限りです。

そこで、臨床の成果は論文として伝えることができます。本号もありそうで稀少な報告が出ています。臨床の面白さにぜひ触れて下さい。ところで来月われわれが走り回る月です。1年も早いものです。

（高槻にて 竹中 洋）

編集顧問

大和田健次郎

佐々木 好 久

曾 田 豊 二

坂 井 真

小 田 恂

編集委員

八 木 聡 明

竹 中 洋

吉 原 俊 雄

耳鼻咽喉科・頭頸部外科（第79巻 第12号） 発 行 株式会社 医学書院

2007年11月20日発行（毎月1回20日発行）

定価 2,730 円（本体 2,600 円＋税 5%）

〔2007年年度ぎめ予約購読料 39,950 円
増刊号を含む13冊、税込・送料小社負担〕

・医学書院ホームページ（インターネット）は
Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/> です。
・「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」のページは
<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jikotokei/> です。

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5710（担当 西塚・中田）

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802（編集室）

E-mail: jikotokei@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan
・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信（送信可能化権を含む）に関する許諾権は医学書院が保有しています。
・JICIS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >
・本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム（03-3817-5670）の許諾を得てください。